

## 令和4年度 第1回文化財保護審議会議事録

日 時：令和4年5月24日（火）午後1時30分～午後3時

場 所：豊田市役所南庁舎5階 南51会議室

出席者：委 員 田中祥雄会長、後藤嘉寿美副会長、岩田敏也委員、岡本大三郎委員、  
加藤真司委員、北村和宏委員、佐久間章郎委員、永田研委員、  
白鳳明人委員、水野功委員、山口薫子委員、渡邊健二委員

事務局 南良明部長、加藤達志副部長、森泰通専門監、児玉文彦課長、  
梅村美紀子副課長、伊藤達也副主幹、高橋健太郎博物館準備室長、  
村田眞宏博物館準備室参与、伊藤智子市史編さん室長、井上足助分室長、  
都筑正敏民芸館長、久野雄二担当長、鈴木なつみ担当長、  
倉林重幸主任主査、駒野雅彦主任主査、伊藤圭一主査

欠席者：委 員 阿部和俊委員、水野半次郎委員

資 料：令和4年度 第1回文化財保護審議会

<資料>（【資料1】～【資料5】、【別紙1】、【別紙2】ほか）

議事録署名：佐久間章郎委員、永田研委員

- 1 生涯活躍部長あいさつ
  - 2 会長あいさつ
  - 3 文化財課組織体制及び異動職員の紹介
  - 4 議題
- (1) 令和3年度文化財課事業報告について
  - (2) 令和4年度文化財課事業計画について

事 務 局：説明【資料2】

〔意見・質問〕

委 員：過年度の報告と新年度の計画を説明いただいた。博物館の開館に向けて邁進する、遺漏なく進める事が重要である。例えば、豊田市史資料調査会が撮影した写真等資料の移行、地域資料館との連携など課題が山積みである。順次進めて頂きたい。では、委員の方々は挙手にてご意見、質問をお願いします。

明治用水に関する案件も、後で説明頂きたい。

委 員：昨年度は新修豊田市史の通史編が全巻刊行され、通史を題材とした特別展を試みられた訳だが、意外と入館者数が少なかった。展示の内容として、各担当者が個別に資料を展示した感じであった。新しい博物館では、通史について、従来通りではなく、見せ方を工夫すると聞いていたので、それが今回の展示にも生かされていればと思ったが残念であった。先ほどの事務局の報告でも反省の

言葉があったが、新しい博物館に向けて工夫してほしかった。

- ・コロナの影響で、民俗文化財の補助金申請が取り下げられ、マイスター活動が伸び悩んでいたということが、今後様々な形で影響が出てくるように思う。うまく乗り越えられるのか心配である。コロナ終息後、全くコロナ前に戻るとは思わないが、何か対策が必要だと思う。次の報告で、郷土芸能の保存会がひとつ無くなるという厳しい状況になっているので、早急な対策が必要になると思う。
- ・それから民芸館は非常にいつもよくやってくれていて、昨年度の展示も素晴らしかったし、もっと人が来てほしいと思う。昨年度は新たな試みをされていて、非常に感心している。美術館は毎回展示の度にレストランと連携したり入館者増につながっている。民芸館の事業は今年度も楽しみにしている。
- ・今年度の博物館の取組は、事業計画や管理・運営方針が決定されるころまでできている。ぜひ逐一報告をして頂きたい。美術館との一体管理や文化ゾーンの整備についても、関係する皆さんの意見を伺いながら進めてほしい。
- ・閉館に伴う準備も大変だと思うが、特に発見館の移行や（移転）後のことも気になっている。
- ・一番気になったことであるが、経年等で早急に対応が必要な文化財について保存や継承への対応について、掲げて頂いたのは非常にうれしい事だが、どのように把握し、どう対応しようとしているのかお聞きしたい。

事務局：頂いた意見のうち、特別展についてお答えする。通史編という枠組みの刊行本がある中で、それをもう一度消化したうえで、更に博物館の常設展示を想定しつつ、試行する場として展示準備を進めてきたが、非常に難しかった。館として目指す姿と学芸員ひとりひとりの展示の捉え方、伝え方、表現の仕方も違うことを痛感した。今回の主旨を個々の学芸員も構成を意識すべきであったし、自分としても、展示をまとめていく難しさを感じた。そのことを十分に念頭に置いて博物館の常設展示に生かしていきたい。

事務局：経年等で早急に対応が必要な文化財について保存や継承への対応についてお答えする。修理が必要だという文化財については把握をしている。文化財には所有者がいるので、全額市費で対応することは難しい。所有者に補助金等の説明をしながら対応を進めている。旧町村地域については、文化財保護指導委員 29 人に 3 カ月に 1 度文化財の見回り点検を依頼している。台風等の災害時も点検しながら対応しているので、早急に対応が必要な文化財は少なくなっていると思う。

委員：コロナが収まってきて、ようやく人流がもどってきた感じがある。私も東京に展覧会をいくつか観てまわった。そこで感じたことだがある。豊田市は高校生以下無料となっているが、本当に展覧会を見て欲しいのは大学 1～2 年生だと思う。東京では、19 歳以下はほとんど無料であった。大学 1～2 年生を無料にしてほしい。人数分布を検証しながら考えてほしい。メトロポリタン美術館展は 2,100

円、上野リチ展も 1,900 円。色々な展覧会が高いと感じた。ただし、東京芸大美術館は 400 円、日本美術家連盟会員であれば無料である。私は、博物館は歴史未来学だと思っている。今は、大きな歴史の転換点、シンギュラポイントであると思う。新たなシステムが作られるときであるから従来通りでなく、入場料についても今一度検討されてはどうかと思う。

- ・民芸館は、私も毎回楽しみにしていて、民芸館を訪れる来館者は皆、ファンになっている。ただ今回、とても期待して観に行った民芸館での小林孝亘氏の作品展示は、もう少しなんとかならなかったのかというのが私の感想である。
- ・経年等で早急に対応が必要な文化財について保存や継承への対応は、博物館でも展開してほしい。例にあげると九州国立博物館の文化財レスキューやバックヤードツアーが取り上げられていた。虫害は非常に重要な課題であるし、雑巾の無償提供など豊田市博物館もぜひ、取組んで欲しい。
- ・民芸館の片野元彦展は非常に期待している。私も親交があり国画会との連携ができるとうれしいと思う。

委員：ご意見として聞いておいて頂きたい。

私から、委員の皆さんに 1 点お願いがある。私は松平親氏公顕彰会の会員であるが、昨年度、顕彰会に出した案内看板を 2 点修正した。内容が令和の時代に合わなくなっていた。委員の皆さんにお願いしたいが、市内各所の史跡等の案内板について内容の確認をお願いしたい。修正が必要であれば文化財課に連絡してほしい。

### (3)「旭歌舞伎保存会」伝統的郷土芸能認定取消について

事務局：説明【資料 4】

〔意見・質問〕

委員：解散の原因は高齢化によるのか、これは社会現象であり止む無しと思う。保存会所有の道具類については（解散後）どうなっていくのかお尋ねしたい。

事務局：道具類はほとんど持っておらず、小原歌舞伎保存会から公演の都度借りていたようだ。

委員：会員数は具体的に最終的に何人だったのか。

事務局：認定直後は 9 人だった。ここ 3 年は活動していない。最終的に何人であったかは把握していない。

委員：人数把握していない状況で、取消でよいのか。

事務局：今回、保存会が 4 月に総会を開催し解散を決定した後に、書面で文化財課に報告を頂いた。昨年度までは歌舞伎伝承館で開催している定例会にも参加していた。残念な事であるが、保存会の決定であり致し方ない。

事務局：拳母祭り保存会も非常に厳しい状況である。コロナで去年、一昨年と練習出来

ていない。小学生が中学生になってしまうし、師匠も高齢化していく。お祭りは実施しなくともお囃子の継承のため、練習は続けていきたいところである。今年祭りの方法を見直して、密を避けて行えるように検討している。救護を依頼している看護師の対応も難しいと聞いている。様々な課題があるがなんとか祭りを開催できる方法を検討したい。

委員：水野委員のおっしゃるような考え方や行動こそが、早急に保存や継承などの措置が講じられるべき文化財について必要な取組であると思う。有形文化財だけでなく無形文化財も然りである。本当になんとかしないといけないと危惧している。

#### (4) 令和3年度購入資料について

事務局：説明【資料5】

〔意見・質問〕

委員：民芸館の次回展覧会チラシに掲載されている雑誌『工藝』の装丁の美しさを見るにつけ、民芸館収蔵品の民芸としての美しさを感じ入る。

#### 8 その他

委員：旧明治用水頭首工への対応についてお尋ねする。

事務局：現在、矢作川の明治用水頭首工付近の水が抜けたことにより、旧明治用水遺構が水上に露出している状況である。以前から、矢作川河川整備に向けた調整の中で、国交省豊橋河川事務所、愛知県文化財室が保存、調査について検討を行っており、豊田市は現地自治体という立場で関わっている。

今後の保存や調査に向け、現在の状況で調査しておくことが重要だということは認識している。具体的な調査の方法は検討中だが、ドローンを使用した3次元測量等を県等と調整しているところである。

委員：委員の皆さんも気にしていて欲しい。